



「ふくしま・イングリッシュ・コンパス」チェックシート

年 月 日() 校時 年 組 授業者名() 参観者名()

○ 「自己の重点項目を決める」「授業参観の視点として使う」「新たな項目を付け加える」など、工夫して活用してください。 ? 小ガp.95

チェックして、子どもたちに
素敵な授業をプレゼント!

～ぜひチェックしたい項目～

項目	チェック	ページ
(1) 英語の時間のための「英語スイッチ(例⇒3E:笑顔、Enjoy、エネルギー)」が入っている。	4 3 2 1	⑥
(2) 適切に(小・中の学校種に応じて)英語を使って授業をしている。 ※1	4 3 2 1	⑤⑥
(3) 本時のねらいを明確に設定している。	4 3 2 1	③④⑤⑥
(4) 「理解や練習するための指導」と「言語活動」を適切に使い分けている。	4 3 2 1	①
(5) 言語活動において、目的や場面、状況等を明確に設定している。	4 3 2 1	①
(6) 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解させている。 ※2	4 3 2 1	①
(7) 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てさせている。 ※2	4 3 2 1	⑥
(8) 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行わせている。 ※2	4 3 2 1	①②
(9) 言語活動において、伝えたい「内容」だけでなく、伝えるための「英語表現」を子どもに思考・判断させている。	4 3 2 1	①②
(10) 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行わせている。 ※2	4 3 2 1	⑥

子どもたちの豊かな学びのために、
何にチャレンジする?

～チャレンジしたい項目～

(11) 単元など内容や時間のまとまりの構想(ゴールイメージ等)を明確に示している。	4 3 2 1	①
(12) ウォームアップ(小学校のSmall Talk等含む)を、単元又は本時のねらい等と関連させている。	4 3 2 1	③④⑤⑥
(13) ウォームアップを、中心となる言語活動又は理解や練習するための指導と関連させている。	4 3 2 1	①⑥
(14) Small Talk等を取り入れている。	4 3 2 1	⑥
(15) 単なる機械的な反復練習ではなく、意味のある活動にしている。	4 3 2 1	①
(16) 言語活動を単元など内容や時間のまとまり又は授業の中で繰り返し設定している。	4 3 2 1	①
(17) 言語活動を通して、見方・考え方が働くようにしている。	4 3 2 1	②
(18) 必要最低限の文法事項(小学校:文及び文構造含む)の扱い(気付き等)にしている。	4 3 2 1	④⑤
(19) 中学校において、技能(領域)統合型の言語活動を設定している。	4 3 2 1	⑤
(20) CAN-DOリスト(振り返りシート等)を活用している。	4 3 2 1	②⑥
(21) 単元など内容や時間のまとまり又は本時において、パフォーマンステスト等を実施している。	4 3 2 1	②
(22) 音声から文字へという原則的な指導順序を意識している。	4 3 2 1	③④⑤
(23) 小学校での「読むこと」「書くこと」等において、事前に音声で十分に慣れ親しませている。	4 3 2 1	④
(24) ICT等を効果的に活用している。	4 3 2 1	③④⑤
(25) ALT等の役割分担を明確にするなど、効果的にチーム・ティーチングをしている。	4 3 2 1	③④⑤
(26)	4 3 2 1	
(27)	4 3 2 1	

普遍的な授業の在り方は、授業スタンダードを参照!

- 1 単元(題材)の構想を明確にもっている。
- 2 本時のねらいを明確にもっている。
- 3 授業の約束事や学習に向かう心構えを指導している。
- 4 子どもの「問い」や「思い・願い」を引き出し、学習課題を設定している。
- 5 子ども一人一人に追究・解決の計画や見通しをもたせている。
- 6 机間指導で子どもを見取り、適切に支援している。
- 7 ペア学習やグループ学習を取り入れる目的を明確にもっている。
- 8 本時のねらいに迫るように話し合いをコーディネートしている。
- 9 本時で学習したことを明確にし、振り返りを工夫している。
- 10 新たな学びに目を向けさせる終末になっている。
- 11 授業の流れが分かり、構造的な板書になっている。
- 12 吟味精選された発問をしている。
- 13 ノート指導を継続的に行っている。



メモ

*1 中学校の場合は、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。必要に応じて補助的に日本語を用いることも考えられる。

*2 (06)(07)(08)(10)といった英語教育における学習過程の流れの中で、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで、「思考力、判断力、表現力等」を高めていくことが大切である。